



【ひらやま ひろし さん】 旭ヶ丘 / 74 歳

●千歳柔道連盟の会長 柔道7段

千歳柔道連盟は、昭和29年5月に設立された。平成10年から第6代の会長に就任し、後輩の指導育成にあたっている。

柔道は、礼に始まり礼に終わる武道であり、スポーツです。

平

成24年4月から全国の中学校で、保健体育の授業で武道が必修になり、市内すべての中学校では、柔道を選択しています。柔道の授業中、けがなどがなく、安全に行われるよう、柔道連盟の指導者に協力をいただいています。

平山さんは、柔道を始めて60年になります。「きつかけは、中学校に入学したとき、強い男になりたいと思いい、道場に入りました」と話します。道場の先生は柔道9段で、厳しい指導を受けて、高校を卒業するまでに2段、その後3段と昇段し、平成9年には7段の資格を取得したそうです。「得意技は、先生の教えを守り、苦勞しても確実に勝負がつく寝

技、特に絞め技です」と話します。

現在、柔道連盟の会長に就任しています。「中学校の武道で柔道を選択いただいたことは、光栄であり、責任を痛感しています」といいます。柔道連盟からは、平山さんのほか、5人の方が指導にあたっています。

「柔道というと、どうしても投げ技を連想しますが、礼儀作法を重んじた武道であり、スポーツです。子どもたちには、相手を大事にすることから教えています」と話します。

授業では、柔道着の着方や帯の締め方、礼の仕方、座り方、立ち方、受け身のほか、膝をついた投げ技や寝技などを教えているそうです。

「けがをしないよう、飽きがないよ

う、無理をさせないで、その子にあった内容の練習をさせている」といいます。

子どもたちも、最初はとまどっていたようです。授業が終わってから一人ずつ感想を聞いてみると、「最初はこわかったけど、こんなに柔道ができるとは思っていなかった」、「楽しかった」、「親切でいいねいに教えてもらえてありがとう」などと、感謝の言葉も言ってもらえたそうです。

子どもたちには、正座やあいさつの仕方なども細かく教えているそうです。

「礼儀作法が身につくことにより、将来、高校や大学に進学するとき、就職するときに役立ちます。これからも柔道の良さが分かってもらえるよう協力していきます」と語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



平山

HIROSHI
HIRAYAMA

裕

さん